

## 「幸いと不幸」

2015年06月04日

ルカによる福音書 6章20節～26節。さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、／あなたがたは笑うようになる。人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、／あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、／あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、／あなたがたは悲しみ泣くようになる。すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

主イエスは平地に立ち、群がる民衆に目を上げ語り始めた。「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、／あなたがたは笑うようになる。」貧しく、飢え、泣いている人々は幸いであると言う。なぜ、幸いなのか。「幸い」という言葉にはハッピーで、ラッキーという響きがある。「幸い」のギリシア語は「マカリオイ」で「幸い」と訳せるが、「祝福されている」とも訳せる。主イエスが貧しく、飢え、泣いている民衆に「あなた方は神の祝福の中にある」と生を是認された宣言であると、私は理解している。主イエスの宣言を聞いた民衆は、自分たちは神から見捨てられた者ではなく、神に愛され祝福されていると、仰天するような気持ちで受け止めたであろう。主イエスの福音は社会の最底辺で生きている人々を、「あなた方は神の愛の御手の中にあるから、大丈夫だ」と生きることに向かって立たせる喜びであった。続いて、人々に憎まれ、人の子（主イエス）のために追い出され、罵られ、汚名を着せられる時、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。神への信仰に生きた先祖、預言者たちも同じであったと語る。権力者たちに差別、抑圧されているあなた方は迫害を受けた預言者と同じように苦しんでいるけれども、大きな祝福が約束されている。

その逆も語っている。「富んでいるあなたがたは、不幸である、／あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、／あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、／あなたがたは悲しみ泣くようになる。すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」富み、満腹し、笑い、人から褒められる人々は不幸である。神を忘れ、自分自身を求めて地上の楽しみを満喫した人々は一切を失う。不信に走った先祖、自分の益を得るため偽りの言葉で人を喜ばせた偽預言者たちの末路は無であり、死であった。

主イエスは生きる場を失っている民衆に対し、あなた方は神に愛され祝福され「生きよ」と是認されている。この福音を鮮やかな逆説で語ったのである。そして、この逆説は今も真理である。主イエスの逆説から、むのたけじ氏が言う「希望は絶望のど真ん中に」という言葉を思い起こす。